施設の特徴

土門拳がとらえた予科練

予科練平和記念館では、昭和を代表する写真家、土門拳が土浦海軍航空隊に泊まりこんで撮影した写真42枚を収蔵、展示しています。戦後、一連の写真のほとんどは焼却されてしまいましたが、当館で展示しているものは、持ち主の予科練習生が入院中だったために処分をまぬがれて奇跡的に残ったものです。予科練の証言者ともいうべき貴重な写真をご覧下さい。

空を感じる空間

予科練平和記念館では、「空」を見せることを大切にしています。変わらぬ空の風景から、当時の少年たちの気持ちや現在の平和な世界のことを考えてみて下さい。

館内案内

予科練平和記念館では、予科練の制服である「七つボタン」をモチーフに7つの空間から構成された常設展示室と、企画展示や講演会、研修会等、様々な交流活動を展開する「20世紀ホール」、休憩や図書の閲覧の他、館の収蔵資料などを閲覧することのできる「情報ラウンジ」などがあります。展示を含めた様々な事業を展開し、地域振興を図るための拠点として運営されます。

七つボタンと7つのテーマ

予科練志望者のあこがれであった「七つボタン」は、世界の七大洋を表したもので、海を越えて大空を駆け巡る大いなる期待が込められています。予科練の代名詞とされ、空を目指した当時の少年たちのあこがれであった「七つボタン」にちなんで、入隊から特攻にいたる7つのテーマによるストーリーを設定し、施設全体を構成しました。

展示の概要

1 入隊

「募集」と「志願」という二つの側面によって、応募から入隊までの少年たちの揺れ動く心情を明らかにし、予科練を目指した時代的な背景や制度の変遷を解説・展示します。

2 訓練

予科練での厳しい生活や訓練風景、教育の様子などを当時の取材に基づくイラストや写真、実物などで紹介し、航空兵を目指して時代を駆け抜けた予科練習生の実像に迫る展示です。

3 心情

手紙や日記、手記などをもとに、希望と不安の中で日常を過ごしつつ、訓練に明け暮れた少年たちの「想い」に触れることで時代を経てもなお色あせぬその「心情」に迫る展示です。

4 飛翔

予科練を卒業後、飛練や実用機教程などを経て、戦地へと飛び立っていった出身者が各戦線で活躍した事、一方で思いを遂げられず訪れた様々な悲劇などを伝えます。

5 交流

戦時下の苦しい状況の中でもたくましく生き、予科練生の厳しい猛訓練を影から支えた阿見の人々。その交流の軌跡を戦時下の暮らしを物語る情報や資料と対比させながら紹介します。

6 窮迫 空襲映像 07分～、22分～ 37分～、52分～

戦局の悪化によって国土が狙われ、空襲という形で現実化した恐怖を、臨場感あふれるシアター映像と空襲にちなんだ資料や証言によって感じとれる展示空間です。

7 特攻 特攻映像 07分～、22分～ 37分～、52分～

多くの予科練習生が犠牲となった「特攻」作戦。予科練出身の戦死者を暗示する光に囲まれた展示室で、予科練と「特攻」作戦のかかわりについて紹介します。